

防災システムの立場から

名古屋工業大学 山本 幸司

1. 民間建設部門の復旧支援活動とその教訓

- ・民間建設部門（建設会社とコンサルタント会社）が、震災直後に行ったボランティア活動
- ・その後の応急復旧ならびに本復旧で果たした役割
- ・その際の問題点とそれから得られた教訓

2. ライフライン部門の復旧支援活動とその教訓

- ・甚大な被害を受けたライフライン（ここでは上水道、ガス、電気、通信、鉄道を対象）各社が、震災直後に行ったボランティア活動
- ・その後の応急復旧ならびに本復旧で果たした役割
- ・その際の問題点とそれから得られた教訓

3. 民間建設部門とライフライン部門によるボランティア活動

- ・民間建設部門ならびにライフライン部門が震災直後にとった行動の分析を通して明らかとなった企業レベルでのボランティア活動

4. 「防災システム」とその核としての「情報システム」構築の必要性

- ・震災時に緊急対応し、被害を軽減するための、官民が一体となった「防災システム」を構築することの必要性
- ・情報の発信・受信、処理・分析を行うための「情報システム」が「防災システム」の核として機能すべきであることの指摘
- ・アメリカ、韓国等の防災組織、防災システムの概要について述べ、我が国として「防災システム」を構築していく上で参考となる事項の指摘

5. 「情報システム」を核とする「防災システム」の理想像

- ・「防災システム」の理想像と具備すべき機能の概要
- ・「情報システム」の理想像と具備すべき機能、及び「防災システム」との関係

6. 土木学会の「災害緊急対応部門会議」の活動経過

- ・緊急災害発生時に、土木学会としての中立性を確保しつつ、緊急調査団の派遣等に即応するシステムの構築に取り組んでいる「災害緊急対応部門会議」の概要